



少年メッセージ2015 和歌山市発表大会

6月6日(土)、和歌山市で初めての「少年メッセージ2015 和歌山市発表大会」が実施されました。

和歌山市内の各中学校から1,291作品が応募され、その中から17人が発表者として選ばれました。

本校3年生の山本楓夏さんの作品も選ばれ、堂々と発表してくれました。



「未来に光を」

東和中学校 3年 山本 楓夏

私の夢は保育士になって子ども達に夢をあたえることです。なりたと思ったのは2年生の職場体験での宮前保育所に行ったことです。

初めは、なりたい気持ちだけで行きました。でも、その気持ちだけじゃ通用せずに、たくさん泣かれて困っている時に助けてくれたのが職場の人で、子ども達に怒る時はちゃんと怒り、ほめる時はたくさんほめて、子どもを笑顔にしている、その姿がとてよかったです。その姿を見て、私も保育士になりたいと思い職業に興味がわきました。

中学2年生の終わり頃、テレビで児童養護施設のことを放送されていて、災害や事故、親の離婚や病気、また不適切な養育を受けているなど、様々な事情により家族による養育が困難な人たちが暮らしている所で、協調性や思いやりの心を育みながら生活していることを知り、こんな場所があり、こんな生活をしている人がいるんだと知りました。

そして、その人達を少しでも助けられたり、役に立って、みんなを楽しませて、笑顔にしたり、また、心の中にかかえている不安や悩みを軽くしてあげて、少しでも未来に光を照らし、未来につなげてあげたいと思いました。

普段、私たちが当たり前のように過ごしている家族と一緒に食事をしたり、今日の出来事を話したり、出かけたり、また、友達と学校ではしゃいだり、黒板に向かって授業を受けたりするのは、本当は当たり前なんかじゃなくて、やりたくてもできない人がいるんだと感じながら、今は時間を大切にしながら過ごしています。

そして、いつか私が大人になって社会に出たら、子ども達に未来をあたえる仕事に就いて、保育士さんみたいに怒ったり、ほめてあげたり、笑顔にしてあげたり、児童養護施設で働いている人たちみたいに、子ども達に未来をあたえたり、心の中に傷を負っていたら少しでも軽くしてあげたり、生きている理由を見失った人たちには希望を見つけ出してあげたり、愛したり愛されたりするのがわからない人には「愛」という大切さを教えてあげたり、家族がいない人にはもう一つの新しい家をつくって当たり前の生活に少しでも近づけてあげて、子ども達の巣立ちを支えてあげる、そんな大人になりたいです。

でも、言葉では簡単に言えるけど、実現するには難しと思う。誰もがみんな心を開いてくれるわけじゃないし、荷物を軽くしてあげられない時や気持ちをわかってあげられないほどの人だっていると思います。18歳になると施設を退所しなくてはならないので、普通なら当然のように親から受ける支援もなく、相談できる相手もなく、一人でかかえ込み、孤独を感じながら生きなきゃいけない人たちもいると思う。

そんな人達を支援する方法はたくさんあるので、みんなを幸せにできたり、笑顔にできたりする仕事について私なりの支援をしていきたいです。

私は、夢をかなえて大人になった時、子ども達に生きる喜び、つらいことを乗り越えていける強さ、仲間の大切さを教えてあげたいです。

まっすぐで優しく強く笑顔を大切に、そして、子どもの夢や未来をあきらめず、一緒に応援してあげられる、そんな素敵な人になりたいです。

『第15回全国障害者スポーツ大会(紀の国わかやま大会)リハーサル大会』

車椅子バスケットボール競技』 競技補助員 (6月7日、和歌山ビッグウエーブ)
東和中学校 バスケットボール部員34名 ボランティアとして活躍してくれました!



T.O(テーブル・オフィシャルズ)



C.K(コート・キーパー)



【生徒の活躍】

和歌山県中学校総合体育大会新体操競技の部 個人総合5位 桃原 玲(1年生)